

Kohara
Racing Team

Kenta Fujii / Shizuka Okazaki / Kazuki Yukimura
2019 MFJ ALL JAPAN ROADRACE CHAMPIONSHIP SERIES

2019 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦
SUPERBIKE RACE in KYUSHU

大分県 オートポリスサーキット (1周4.674km)

■藤井 謙汰 J-GP3 予選: 13番手 (タイム: 2分00秒277) 決勝: 11位

■岡崎 静夏 J-GP3 予選: 12番手 (タイム: 1分59秒812) 決勝: 10位

■行村 和樹 ST600 予選: 34番手 (タイム: 1分57秒229) 決勝: 27位

2019年10月5日(土) 公式予選 天候: 晴れ コース: ドライ
10月6日(日) 決勝 天候: 晴れ コース: ドライ

観客動員数: 6,435人 (2日間合計)



- 5** 藤井 謙汰 Kenta Fujii
class : J-GP3
machine : NSF250R
- 13** 岡崎 静夏 Shizuka Okazaki
class : J-GP3
machine : NSF250R
- 14** 行村 和樹 Kazuki Yukimura
class : ST600
machine : CBR600RR

三者三様 悩み抜いて戦ったレース



いよいよ2019年シーズンも今回のオートポリスラウンドを含め残り2戦と終盤戦を迎えている。阿蘇の山麓の雄大な自然の中に位置するレーシングコースであるオートポリスは、アップダウンがあり、長いホームストレートにテクニカルな中高速コーナーなど全日本ロードレース選手権の開催されている中でも難しいサーキットだ。

そんな難コースでKohara Racing Teamの3名のライダーは、事前テストから、なかなかタイムを出せないでいた。特にJ-GP3クラスの岡崎は、セットを変える度によくない方向に進んでしまい悪循環にはまっていた。

レースウィーク初日は、前日降っていた雨の影響で1本目はハーフウェット。1周でも多く周回したい岡崎は、最多タイとなる計測12周を走り2番手につけた。ここでようやくフィーリングもよくなってくるが、ドライになった2本目では、雨上がりでコンディションが変わったこともあり事前テストよりタイムが出ず13番手。藤井も9番手と、なかなかタイムを縮められないでいた。ST600クラスの行村もリアのチャタリングに悩まされ低迷していた。

土曜日の公式予選は、快晴のもとで行われた。J-GP3クラスは、35分1セッションで争われ、岡崎は、序盤にアタックした1分59秒812がベストとなり12番手。藤井はセッション終盤に出した2分00秒277で13番手。2グループに分かれて行われたST600クラス。行村は、ここでもタイムを出せずB組18番手、総合で34番手となっていた。

日曜日の朝方は特有の霧に見舞われ路面も濡れていたためウォームアップ走行は中途半端な状態だった。それでも迷わずコースインし、少しでもプラスになることを吸収。また天候によっては、同じようなコンディションになることも考えられた。その後、天気は回復し、ドライコンディションでのレースとなった。

15周で争われた決勝。岡崎は、好スタートを切り1コーナーで5番手に浮上！藤井も7番手と2人そろってジャンプアップ。レース序盤はトップグループにつけるが、2人も徐々にポジションを落としてしまう。レース終盤になると岡崎は3台による8位争いの後方につけるが、勝負することはできず10位でゴール。藤井は、最終ラップの攻防に打ち勝ち11位となった。

ST600クラスも15周で争われた。行村は、ぶつつけで臨んだセッティングがいい方向に行き自己ベストをレース中に記録するが、集団でのバトルとなり27位でゴールしている。

藤井 謙汰 コメント

「事前テストからいろいろなセットにトライしましたが、決勝でトップ争いをすると最後まで詰め切れませんでした。その中でレース中に自己ベストを更新できたのはポジティブな部分だと思っていますし、次戦の鈴鹿に向けて、いい流れだと思います。ホームコースの鈴鹿で今シーズン最高のレースをして締めくりたいですね」

岡崎 静夏 コメント

「事前テストでは、いろいろセットを変えてみてもタイムを出すことができて悪循環。レースウィーク初日に、ようやく思っていたようなセッティングを出すことができてペースを上げられてきたのですが、結果的に、そこにたどり着くのが遅すぎました。決勝のスタートは、うまく行ったのですが、余力もなくトップグループの後ろを何もできずに見ているだけでした。次回は、早くも最終戦なので、今回の反省を生かして、いい流れをレースウィークで作って行きたいと思っています」

行村 和樹 コメント

「事前テストからリアのチャタリングに悩まされレースウィークに入っても変わりませんでした。予選後にある方にアドバイスをいただき、マシンセットを変更したら、すごくいい方向に行きレースが一番いい状態でした。レース中に自己ベストも出て「イける!」と思ってバトルをしていたのですが、転倒も多く「路面温度が下がっているのかな?」と守りに入ってしまった。最終戦鈴鹿に向けていいデータが取れたので上位を目指します」

小原 齊 監督 コメント

「事前テストから、うまく噛み合わずレースウィークに入っても、決して諦めずに考え得ることを、できることを全力でしたのですが結果的に突破口を見いだせませんでした。リザルトとしては、満足行くものではありませんが、藤井と行村がレース中に自己ベストを更新できたのはポジティブ。この結果を受け止めて、次戦、鈴鹿でいいレースができるようチーム一丸となって臨みます」

